令和４年度新潟県立図書館運営基本指針 行動計画　に係る意見

１　地域社会への貢献　全体（今後の取組を含む。）への意見

・A 評価のものについては、引き続き内容の充実を図ってほしい。

・県立図書館には多くの素晴らしい資料が所蔵されていると聞いている、これらをギャラリー展示し美術館や博物館的な役割を果たし、関連した図書の利用につなげていただきたい。

・書籍や資料の大切さを文書館と共同で、広く県民に伝えていただけないか。

昭和の世代に活躍した郷土史家、研究者の先生方が相次いで亡くなられている。そういう方々の蔵書がご家族の手で廃棄されているのが残念である。難しい問題とは思うが、廃棄されるものの中に郷土新潟にとって大切な資料もあると考えられる。ご一考いただけるとありがたい。

・「越後佐渡 DL デジタル化画像数」、「郷土人物/雑誌記事索引 DB 収録数」の項目が１００％を大きく超えているのに比べ、「アクセス件数」の項目が B、C 評価になっているということは、需要が想定よりも少ないということである。今後の需要増が見込めるかどうかが気になる。

・貸出冊数の目標もよいのだが、何に基づき目標冊数が設定されているのか不明である。数値目標の根拠を示していただきたい気がする。

・定性的目標があってもよい気がする。

・レファレンスの質は評価しにくいだろうが、顧客満足度で図ってもよい気がする。

・単なる図書の検索が仕事では、司書の方もつまらない気がする。

２　県内図書館への貢献　全体（今後の取組を含む。）への意見

・令和 4 年度の評価（案）については特に意見はないが、令和 6 年度以降は回数にこだわらない目標としてもよいのではないか。

・全体的に順調であると思う。

・協力貸出冊数については、需要の予測が立ちにくいため、数値的目標を設定するのが難しいように思う。

・予算の削減等で、どこも図書館の人員が削減され、専門の司書数が減っていくと思われる。そのようなスタッフの減員による差で地域のサービスに差がつかないように応援や指導など、今後も計画を立ててお願いしたい。

・訪問等回数（研修以外）の目標を設定しているので、最初からその目標を達成できるような計画的な訪問を企画した方が良い。計画したが実施できなかったのなら良いと考える。

・県内図書館への助言や研修は目的意識と明確な目標に基づき回数目標と定性的な評価を併用すべきかと思う。

・県内図書館の何に貢献したのか評価不能である。

・県内図書館の他者評価を導入してみるのも一つの手段ではないか。

３　県民の生涯にわたる学びへの貢献　全体（今後の取組を含む。）への意見

・コロナ禍による影響がある中、様々な取組をされているのがわかった。評価の低いものについても、やむを得ない部分があるのかと思うので、引き続き目標達成に向けて努めていただきたい。

・D 評価ということだが、サピエ資料の需要が県内にどの位あるのか、単純に前の年よりも数値を上げることが目標として適切なのかが気になる。

・図書を貸出する以外でも県民のニーズを発掘し、利用につなげる方法もあると思う。例えば図書館司書の知見を利用した資料の探し方講座などがあってもいい気がする。図書の貸し出しやレファレンス以外でも図書館に対する隠れた需要はあると思う。個々の館員の創意を発揮した事業を行うことを要望する。

・県立図書館だから県内の情報を発信するというのもよいのだが、グローバルな情報化の時代に適した最先端の情報発信を期待するのは無理なことだろうか。

新潟県立図書館運営全体に対する意見

・県立図書館の役割として、行政との連携、貴重な資料の収集・保存はあると思うが、一般の人の図書館利用率を上げて行く事も大切だと思う。図書館を認識してもらう為に、写真なども多用したホームページの作成、学校・学生などへの働きかけ等、積極的な発信が必要だと思う。

・達成率が１００％よりもはるかに高い項目については、A ではなく、AA や S という評価をしても良いように思う。

・電子図書の普及で、図書館離れにならないように魅力発信を引き続き実施していただきたいと思う。

・コロナ対策で、手指消毒は引き続き設置していただきたいと思う。

・協議会に参加していて、図書館の運営・経営が県の経費削減により難しい状況になっていることを感じている。図書館は県民へ図書の貸し出しや読書をサポートするサービス機関であると同時に、教育の場、情報の集積地、研究者の集まる場所であってほしいと願っている。

・文書館･生涯学習センターとタッグを組んで、三つの館の合同で頑張っていただきたいと思う。

行動計画の評価であるが図書館側が主体的にできる項目はA評価を達成しており、全体として大いに評価できる内容である。

一方で、アクセス数や利用者数など相手がいる事項はC・Dの評価となっているが、コロナ禍などの影響もあり、利用者数など図書館側で主体的にできない事柄のため、致し方ないと考える。

全体としては、コロナ禍にも関わらず健闘したと評価できる。

引き続き、図書館や職員の専門性が発揮できるサービスを継続していただければと考える。

電子書籍導入についても、遠隔地の県民でも利用しやすいサービスを期待したい。

また、これは１つのアイデアに過ぎないが来館者にタブレットを館内貸出して電子書籍が館内でも読めるようにすることや、利用方法を動画でも紹介するなど、電子書籍に触れるきっかけ作りも検討していただければと思う。